

板橋区立中台中学校

(1) 教科センター方式

(2) 生徒数 482名 14学級

(3) 大学連携 福井大学拠点校

(4) ICT活用 学校情報化優良校



1-(1) 校内研修のねらい

<これからの学校教育>

- ・「主体的な学び」
- ・「協働的な学び」
- ・「学びの活用」(汎用性)



教師にも同じ学びが必要



1-(2) 校内研修のねらい

- 教員の資質・能力の向上
- 教科の壁を取り除く
- 「チーム学校」の組織づくり
- 楽しみながら役立つ研修



2 学校のキーワード

「つなげる・深める・広げる」

- つなげる: 学びを生活につなげる
人々をつなげる
- 深める: 学びを深める
人々の関係を深める
- 広げる: 学びを広げて考える
人々の関係を広げる



3-(1) 校内研修の実際

- ・校長→研究主任に相談
テーマ「授業をつなげる」
- ・研究主任→研究推進委員会
アイデア:「コラボ授業」
計画・運営 全体案作成
- ・校内研修
研究主任が全体計画を説明



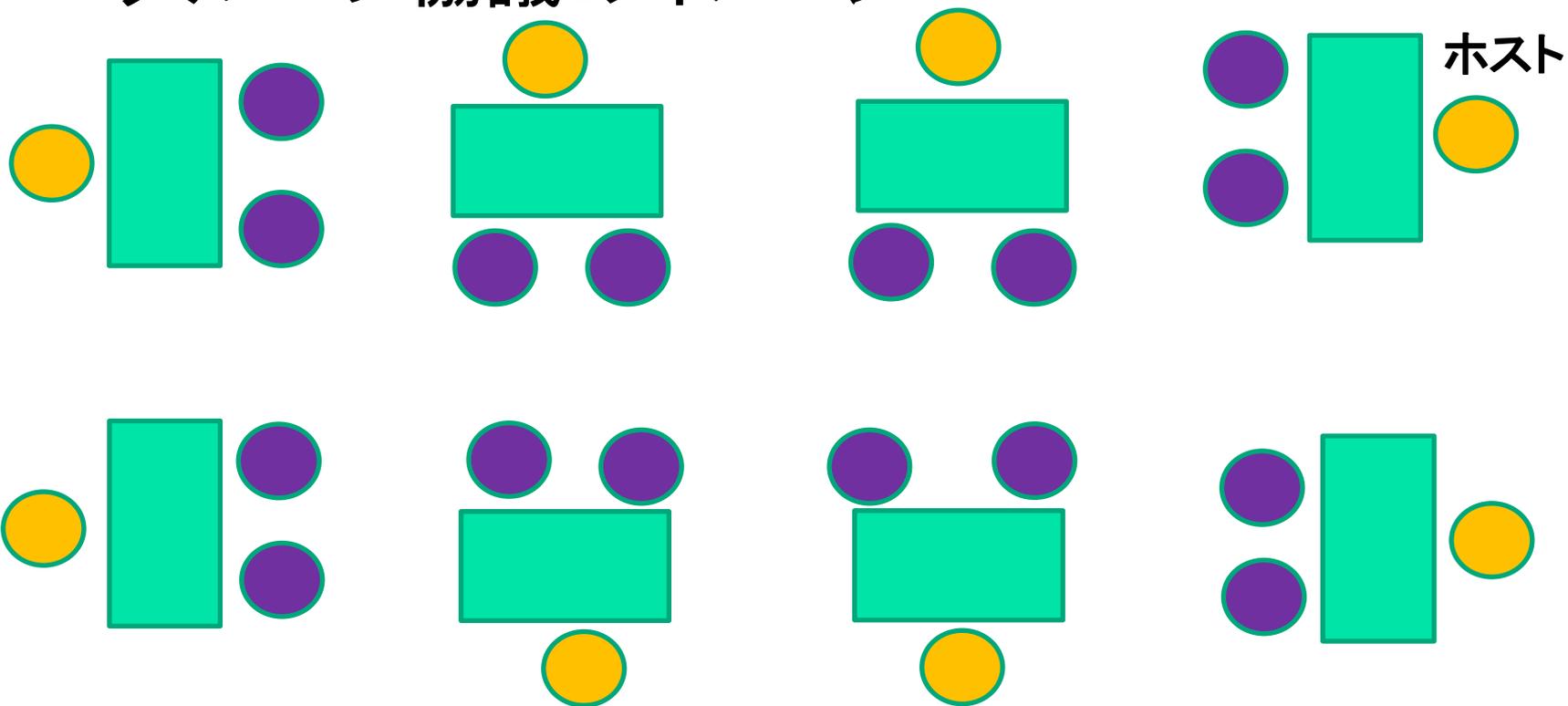
3-(2) 校内研修の実際

研究主任からの提案

- 24名の教員を3グループに分ける
- 8名の教員がブースを設け、他教科の教員とコラボできる内容について相談
- 3回ローテーションで全教員がブースで対応
- 3人の教員が授業実践(くじ引きで決める)

3-(3) 校内研修の実際

■ グループ協議のイメージ



3-(4) 校内研修の実際



国語科教員のブース

- ・社会の教員と「奥の細道」について話し合い
- ・東北地方と合わせた授業ができるかも？
- ・数学科が「松尾芭蕉の移動の速さを求めると面白いかな？」

4 - (1) 授業実践

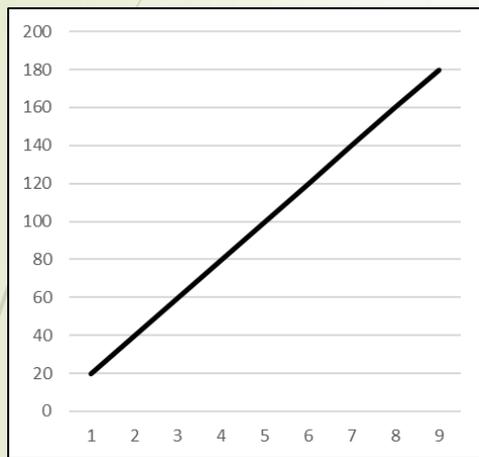
➡ 体育 持久走 (コラボ教科：数学)

1,000m走のタイムを伸ばそう！

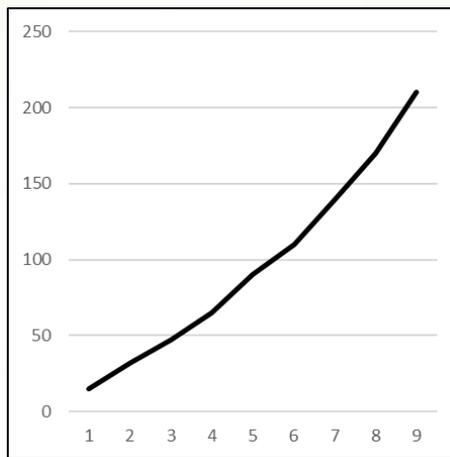
- 100mごとのラップを記録
- 距離と時間の関係をグラフ化
- グラフを分析し、理想的な走り方を考える

4 - (2) 授業実践

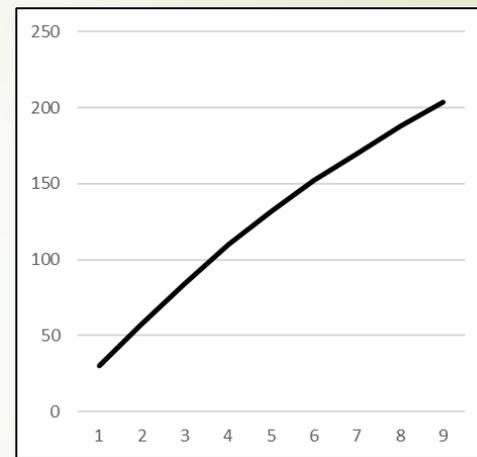
生徒の持久走グラフ



一定のラップ



前半飛ばしすぎ



前半押さえすぎ

<生徒> グラフを見比べて意見交換
どのように走れば速くなるか？

一定の速さで走るのが理想型

4 - (3) 授業実践



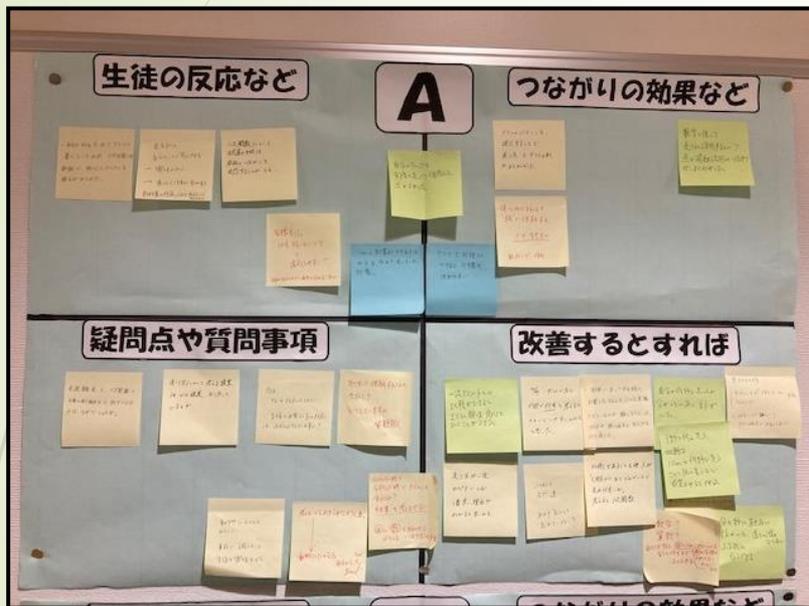
体育科教師と数学科教師の授業



各自のラップタイムを入力して
グラフ化

自分に適したラップタイムを算出し、
実際に走って体感として確認

4 - (4) 授業実践



グループ協議会

生徒の反応、つながりの効果など
気付いたことを付箋に記載し
グループで話し合う！
職員室の壁に掲示(常に見られる)



校内研修冊子

毎年の取組を冊子にまとめる！
記録の積み重ね
新たに赴任した教員への理解
全教職員の取組を紹介

5 - (1) 成果と課題

<成果>

- ・ 教師が日常的に授業について話すようになった。
- ・ 学んだ内容を活かすことを経験できた。
- ・ 生徒たちが学びの必要性を感じた。
- ・ 生徒も教師も楽しみながら学ぶことができた。

<課題>

- ・ 教師同士の打ち合わせを行う時間がないので、日常的な実施が困難である。
- ・ 今後は、学んだ内容を生活につなげる必要がある。